

綾瀬発・釜石応援プロジェクト

本会では、東日本大震災の被災地である岩手県釜石市を応援するため、平成23年度2回の「ボランティアバスパック」を実施。昨年度「綾瀬発・釜石応援プロジェクト」を立ち上げ、3カ月ごとに4回実施し、今年度においても4回の支援を実施してまいりました。

このプロジェクトは、社協の持つネットワークを生かし、賛同いただける市内の団体にお集まりいただき、企画から実施までを一緒に行うものです。

また、市内の事業所の皆様にも御協力をいただき、食材等の御提供をいただきました。

活動内容は、現地の栄養士と連携を図りながら、仮設住宅における栄養バランス改善事業を行う「青空給食」と、がれきの撤去や海岸清掃など現地のニーズに基づく活動を2つの班に分かれて行いました。さらに終了後は実際の被災現場に立って、被災者の話しを聞く「青空講演会」も併せて実施しました。

そして、今年度は特別に、仮設団地における「釜石&綾瀬夏の交流祭り」を実施し、大勢の方に御来場いただきました。

プロジェクトメンバー（順不同・敬称略）

綾瀬青年会議所 綾瀬アカデミー 綾瀬市商工会青年部 ブタッコリ～推進委員会
あやせ災害ボランティアネットワーク 市民活動センターあやせ
(株)タウンニュース社綾瀬編集室

食材等提供（順不同・敬称略）

（第1期～4期協力）

(株)高座豚手造りハム 秋本食品(株) エムケーチーズ(株) 綾瀬市地場農産物消費拡大推進協議会 東京キリンビバレッジサービス(株) 大和営業所

（第2期のみ）

(株)ファイアート神奈川 (有)青柳商店 (株)ラテン大和(株)南里製作所
ブタッコリ～推進委員会 国際ソロプチミストあやせ

（第3期のみ）

(株)伊藤園 コカ・コーラセントラルジャパン(株)

協力機関（順不同・敬称略）

釜石市社会福祉協議会 NPO ハンズ（岩手県）

第1期 平成25年6月21日(金)～23日(日) 参加者31名

青空給食班：大曽根消防コミュニティセンター（約130名）クリームシチューうどん



作業班：がれきの撤去作業



青空講演会：箱崎ファーム（講師：前川事務局長） 津波記念碑



今年度第1回目となる青空給食は、仮設団地が会場ではなく、みなし仮設を含む広い範囲の地域住民を対象にお集まりいただきました。綾瀬市のゆるキャラ“ブタッコリ〜”が青空給食に登場。みなさんとても楽しそうでした。

第2期 平成25年7月26日(金)～28日(日) 参加者34名

作業：除草作業



イベント：天神町仮設団地における交流夏祭り



特別企画の夏祭りは大盛況で、天神町仮設団地の方々約300人が御来場くださいました。焼きそば、バーベキュー、縁日、花火、ミニライブなどたくさんの催しものを実施。特に1500個のキャンドルナイトは幻想的に暗闇を照らしました。

給食班：向定内地区仮設団地 冷製五菜そば



作業班：B1 プロジェクト支援（海水浴場再生活動）



青空講演会：鶴住居（うのすまい）防災センター跡地



青空給食は、昨年このプロジェクト初の青空給食を行った仮設団地が会場でした。参加してくださった住民の皆さんも昨年のことを覚えてくださり、とてもよい交流が持てました。またB1プロジェクトも昨年依頼の活動でしたが、進まぬ復興を目の当たりにして皆さん複雑な思いを胸に活動をされていました。

第4期 平成25年10月11日（金）～13日（日） 参加者28名

青空給食班：野田中央仮設団地 クリームシチューうどん



作業班：菜の花プロジェクト



青空講演会：鵜住居（うのすまい）駅跡地



今季最後の支援活動は、昨年の訪れた野田中央仮設団地。そこには昨年送った寄せ書きの昇り旗が飾られていました。菜の花プロジェクトは、津波の被害にあった田畑を耕して菜の花を植え美しい景観を作っていくことを目的としている活動です。皆さんいい汗をかいていました。

東日本大震災から2年半が経ちました。綾瀬市社会福祉協議会では震災後の7月にボランティアバスパックを2回実施し、翌平成24年度から本プロジェクトを立ち上げてその年度に4回実施、今年度の支援を併せて通算10回の支援活動を行ってきました。参加した方は、本会スタッフを含め延べ300人になりました。

釜石の街は瓦礫も無くなり、住民の皆さんも通常の生活を送っているように見えます。しかし、復興住宅の建設は著しく遅れ、仮設団地で生活している方の疲労も高まっています。

仮設団地を回っていると「震災の風化が進むのが怖い。こうやって来てくださると、“あなた方のことを忘れていませんよ”という感じることが出来ます。また来てください。」と言われます。今回は、昨年訪れた仮設団地に再び行くことが出来ましたが、ほとんど変わらぬ状況は、復興が程遠いことを感じざるを得ませんでした。

また、今年度は通常の活動とは異なる夏祭りを実施し、大勢の方と交流を図ることができました。この活動は今後の被災地支援を継続していくうえでの課題などを知る大きなきっかけとなりました。

月日が経つにつれて人々の記憶から徐々にこの大災害の事実が薄れつつあります。しかし、まだまだやるべきことはあると私たちプロジェクトメンバーは思っています。

被災地に行っても出来ること、綾瀬にいても出来ることがたくさんあります。これからもどうぞ皆様のお力をお貸しください。

最後になりましたが、参加された方、ご協力をいただきましたすべての方に心からの感謝を申し上げます。

綾瀬市社会福祉協議会

